

# 『子どもが本と 出会うとき』

～西暦2000年は「子ども読書年」～

今年5月5日の「こどもの日」に、「国際子ども図書館」（日本初の国立児童資料専門図書館）が東京・上野にオープンします。これに合わせて国会は、西暦2000年を「子ども読書年」とすることを決議しました。（1999年8月）

今回は、みやぎゆかりの児童文学者・石井桃子（いしい・ももこ／1907年～）さんの活動を手がかりに、子どもと本の出会いのために宮城県図書館が果たしてきた役割と、児童サービスのいまを紹介します。



## 子ども図書室(2F)

「ねえ、いっしょによみましょうよ。」

■絵本コーナーには、日本と外国の絵本がそれぞれ絵を描いた人の名前の順番に並んでいます。

## 『ノンちゃん雲に乗る』は みやぎで生まれた

戦後の児童文学を代表する『ノンちゃん雲に乗る』（大地書房 1947年）は、石井桃子さんが、戦争中に東京から疎開してきた宮城県栗原郡鶯沢村（うぐいすざわむら／現在の鶯沢町）で書き上げた作品です。

『ノンちゃん雲に乗る』は、昭和26年（1951）に第1回芸術選奨文部大臣賞を受賞し、当時のベストセラーになりました。石井さんはその印税で鶯沢に「ノンちゃん牧場」を開き、地域の人々や子どもたちとふれあったのです。そこでの暮らしを、飼い猫をモデルにして描いたのが『山のトムさん』（光文社 1957年）でした。『やまのこどもたち』（深沢紅子絵 岩波書店 1956年）、『やまのたけちゃん』（深沢紅子絵 岩波書店 1959年）も、この地域が舞台です。

石井さんが鶯沢で過ごしたのは4年間ほどでしたが、鶯沢を“第二の故郷”と語り、帰京後も時折折ねては、小学校で読書の特別指導にもあたりました。子どものための図書館づくりは、石井さんの大きな夢でした。石井さんは生涯をかけて、このテーマに取り組んでいるのです。



## ◀『ノンちゃん雲に乗る』

（石井桃子著 光文社 1956年）  
小学2年生の少女ノンちゃんが、木から落ちて気を失い、夢の中で雲に乗った老人と、家族のことを語り合う物語。

## 昔懐かしい『鞍馬天狗』の 街頭紙芝居

昭和63年まで約30年間、仙台で紙芝居屋さんをしていた井上藤吉氏から寄贈されたもの。絵は手書き。本館所蔵の5,317巻は東日本最大のコレクションです。



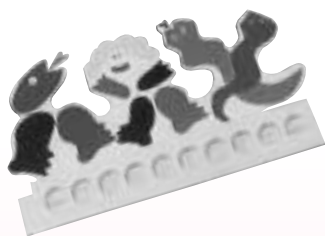
## 宮城県図書館と児童文化活動

宮城県図書館は、明治14年（1881）に開館し、明治36年（1903）には「男児童閲覧室」を開設しました。これは公立図書館としては、山口県立図書館に次いで全国2番目の児童サービスの始まりでした。

大正10年（1921）に、仙台市在住の天江富弥（あまゑ・とみや／1899～1984年）とスズキヘキ（1899～1973年）が童謡専門誌『おてんとさん』を創刊すると、児童文化活動は年々盛んになりました。そして大正12年（1923）には、児童文化活動の拠点として、宮城県図書館に「仙台児童倶楽部」が設置されたのです。

仙台空襲で焼失した図書館は戦後復興され、児童文化活動も再開されました。宮城師範学校・東北大学教育

## Enjoy! 子ども図書室



●しらべもの本  
百科事典をはじめ、歴史や地理の本、動物や昆虫図鑑など、中学生までを対象とした知識の本があります。

●特集コーナー  
毎月テーマをもうけて本を紹介します。

●外国語の本  
●宮城県関係の本

●くつろぎコーナー  
ふかふかのクッションの上でおすわりしながら、ねころびながら大好きな本が読めます。

●あかちゃんえほんコーナー  
あかちゃんも絵本が大好き！0～2歳児向けの絵本を集めています。

